

ホテル学校だより

ホテルの里の山歩きイベント 秋の鳥川で里山の自然を満喫！



ホテルの里の山歩きイベント 開会式の様子

2018年10月13日（土）鳥川ホテルの里で鳥川ホテル保存会主催の「ホテルの里の山歩きイベント」が開催されました。里山歩きを通じてホテルを育む自然に親しむことを目的に毎年秋に開催されている恒例行事です。開催前の数日間は雨の日が続いており開催当日も天気が心配されましたが、この日は早朝こそ曇っていたものの天気は晴れ。絶好の里山歩き日和となりました。

開会式ではホテル保存会の片岡会長による挨拶の後、豊富小学校竹内先生による自然学習と頭の体操を兼ねたホテルクイズが実施され、ホテルを取り巻く自然環境について楽しみながら学ぶことができました。準備体操の後、各コースに分かれ先導員より本日のコース概要の説明及び注意事項の確認を行いました。準備が整ったコースからいよいよホテル学校を出発しました。今年も合計100名以上の方が参加し天候にも恵まれ秋の鳥川の里山の自然を大満喫しました。



各コースに分かれて山中を行く

ゴールであるホテル学校に到着後は地元鳥川の方々に作っていただいた“しし汁”をいただきます。猪のだしが出ていて大好評。他にも鳥川産のお米「ホテルの米」や、木炭、野菜などの販売も行われとても賑わっていました。

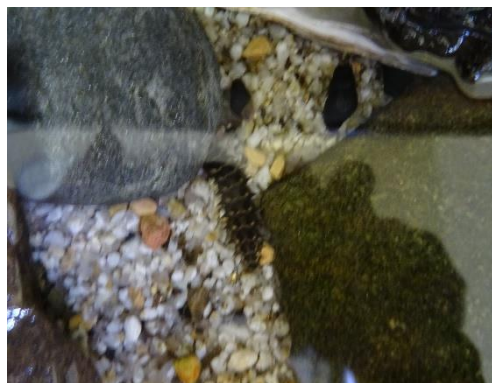
今年は以下5コースに分かれての出発となりました。

- ①鳥川自然観察（ホテル学校周辺）コース
- ②鳥川アルプス縦走（京ヶ峯）コース
- ③ホテルの里展望（水晶山）コース
- ④巡礼の道（喜桜山）コース
- ⑤三河湾展望（音羽富士）コース（難度別・選択制）



地元鳥川の方々によるしし汁のふるまい

ホテル学校歳時記（No.18） ゲンジボタルの越冬



春を待つゲンジボタルの幼虫

冬のホタルは何をしているのでしょうか？毎年春の放流式には元気な姿を見せられますが、冬の間、ホテル学校の水槽にいる幼虫は姿を見せられません。

そこで、今年は二段式の水槽で幼虫を飼育して観察できるようにしました。

木製水槽の上にバットを置き、その上に浄化装置を置きます。

ポンプで汲み上げた水をろ過し、バットに落ちるようにしてあります。

バットからあふれた水は木製水槽に落ち、循環します。

下段の木製水槽でカワニナを飼育し上段のバットでホタルの幼虫を飼育します。

上段のバットの石を動かしてみると、幼虫がいます。

いますが、動きはありません。

寝ているのか、死んでいるのか、わかりません。

じっと、暖くなるのを待っているようです。

あまり、いじると弱ってしまいますので、そっと石を被せておきます。

暖かい日には、活動するかもしれませんので餌となるカワニナは供給しておきます。春まで元気に育ってほしいものです。



二段式飼育水槽

10月28日(日)開催！ ホタル保護活動視察バスツアー

10月28日（日）「ホタル保護活動視察バスツアー」を開催しました。出発のバスの中では参加者による各地域におけるホタルの保護状況等の報告が和やかに行われました。今年はどの地域も猛暑の影響から例年とは異なった様子が見られたようでした。ホタル学校名誉校長の古田先生より猛暑時の対策など詳しい解説をしていただくなど、とても充実した時間となりました。和やかな談笑の中1時間程度でふれあいの森へ到着しました。



白沢ホタルの里(阿久比町)にてヘイケボタルの飼育について説明をいただく様子

ふれあいの森・ホタル養殖場は調査研究施設として平成5年に完成。自然と人間の共生をテーマに掲げ1年を通してホタルの生態が観察できるよう開放されており大人から子どもまで幅広い年齢層の方がホタルの生態について学ぶことができます。ホタル専門員の方が常駐されヘイケボタルの人工育成、エサとなる巻貝類の養殖も行われています。幼虫の飼育ケースは勿論、生態についての掲示物や、ホタルクイズなどが並べられておりました。続いて白沢ホタルの里へ向かいます。白沢地区の白沢大池西の休耕田を利用しヘイケボタル観察会を開催されています。4月下旬～5月上旬に幼虫を放流し、6月中旬から7月上旬にかけて飛び交う様子を観察できます。ヘイケボタルの育成をして16年目になる阿久比白沢ホタルの会・会長、坂部様から説明をいただきました。お孫さんに幻想的なホタルの乱舞をみせたい、との思いから養殖を始めたそうです。ただしホタルの養殖も決して一筋縄ではできません。長年にわたるヘイケボタルの育成について説明していただきました。ホタルシーズンにはザリガニ釣りや鮮やかな竹灯籠のイルミネーションなどもあります。来年のシーズンには必ず訪れてみたいですね。再びバスに乗って岡崎市へ戻ります。普段はゲンジボタルの観察をメインの行っておられる方もヘイケボタルの育成から学ぶことも多く非常に充実した時間となりました。



とっかわの年中行事

山の講

鳥川では農業と共に林業も盛んであった。建築材料のほかに燃料用の薪や炭、松・杉・桧の丸太材の需要も多く、農閑期は山で働いた。そこで、山に感謝し、お祭りする「山の講」の行事が生まれた

普通旧暦の11月7日に行う。山の神は、山から里に降りてきて、田の神となり、収穫が終わると山に帰っていくと伝えられているので11月7日から2月7日まで山にいるということか？とにかく「山の講」の日には一日中、山に入っはいけない。

犬迫(イヌサ)には山の神様の祠がある。昔の尼寺の上の方にあり現在でも残ってはいるが人々から忘れられている。この日は五平餅を作って食べる習慣がある。昔は炭焼き小屋で五平餅を作って食べたと言うが、次第に家で作るようになり現在では見られなくなった。梗の御飯を少々つぶし10センチほどの大ききで、楕円形に平たく握り、ほうろくで焼いて砂糖味噌を付けて食べた。そのまま手に持って食べたり、箸にさして食べた。山で生計をたてている山師や製材関係者の家では、日頃お世話になっている人達を招いて盛大に酒宴を行った。現在でも山が職業の家ではこの日だけは仕事を休み、料理屋などで日頃の労をねぎらうが、五平餅はつくらなくなった。

片岡禮子 著『とっかわの里』より



山の神様

ホタル 星垂るの里 星空コラム

秋の夜空は、何かさみしい感じがします。それもそのはず。夏に見えていた惑星達は西に沈み、一等星も南の一つ星と言われるフォーマルハウトしかありません。その代わり望遠鏡で見る対象としてはスバル、ペルセウス二重星団、アンドロメダ銀河などの星雲・星団が見やすくなってきます。

遠い星を見ることは、遠い昔の光を見ることになります。

宇宙は広大なので、星の光が地球に届くのに時間がかかります。

フォーマルハウトまでは25光年離れています。つまり25年前の姿を見ているのです。25年ぐらいなら、その頃のことを覚えている方もいるでしょう。

でも、スバル（プレアデス星団）は440年前、徳川家康が生きていたころの姿です。

ペルセウス二重星団は8000年前、縄文時代。アンドロメダ銀河においては230万年前、旧石器時代の姿を見ているのです。

そう考えて星を見ると、何かワクワクしませんか。



スバル(プレアデス星団)



アンドロメダ銀河